

GL Sciences

第46期報告書

平成24年4月1日～平成25年3月31日



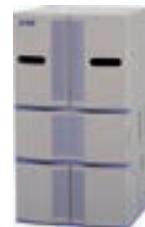
Gas Chromatography



Sample Preparation



Liquid Chromatography



GLOBAL SOLUTION

To Our Shareholders

株主の皆様へ

平素より格別のご支援を賜り厚くお礼申し上げます。

ここに第46期（平成24年4月1日～平成25年3月31日）の営業の概況などにつきましてご報告申し上げます。

当社は「社会に対し社会性を充分発揮してその存在価値を高め、社員個々の幸福を勝ち取り、企業の維持・発展をならしめること」を根本精神としており、この根本精神を実現させるために創立以来毎期、付加価値経営計画を策定し、これに沿った活動を展開しております。

当社は平成25年4月1日に自動認識事業を分社化し、ジーエルソリューションズ株式会社として活動をスタートさせました。独立会社として意思決定の迅速化および経営責任体制の明確化を図るとともに、限られた経営資源の最適化を進め、コスト競争力・収益力の強化を図ることでグループ全体の更なる業績向上を目指す所存です。

なお、期末配当金につきましては昨年同様、1株当たり30円とさせていただきます。

今後につきましても引き続き不透明かつ厳しい経営環境が予想されますが、市場のニーズに合った製品の開発を進めるとともに、マーケットシェアの拡大に努め、高い収益性を確保し続けられるようさらに努力してまいります。

株主の皆様におかれましては、何卒ご理解の上、今後とも一層のご支援ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

平成25年6月



取締役社長

外丸 勝彦

Financial Highlights

業績ハイライト(連結)



(単位:百万円)



(単位:百万円)



(単位:百万円)



(単位:円・銭)



(単位:百万円)



(単位:百万円)

	第42期 平成21年3月	第43期 平成22年3月	第44期 平成23年3月	第45期 平成24年3月	第46期 平成25年3月
売上高 (百万円)	16,323	15,679	16,217	16,509	16,740
経常利益 (百万円)	257	300	750	969	1,133
当期純利益 (百万円)	△152	190	371	609	525
1株当たり当期純利益 (円・銭)	△27.99	37.16	72.45	118.87	102.43
総資産 (百万円)	21,421	22,040	21,994	22,888	22,841
自己資本 (百万円)	12,659	12,627	12,715	13,219	13,901

Operations Review

当期連結業績の概要

■ 当期の概要

当連結会計年度は、欧州債務危機に加え中国経済の成長鈍化等の世界経済の減速により先行き不透明な状況で推移しましたが、わが国経済は東日本大震災の復興需要、政権交代に伴う経済対策や金融政策に対する期待感から過度な円高が是正され株式市場が活性化するなど、景気回復の兆しが見られました。

このような経済環境のもと、当連結会計年度の売上高は、自動認識事業は前連結会計年度を上回り、分析機器事業は微増、半導体事業が微減により、16,740百万円（前連結会計年度比 1.4%増）となりました。

損益につきましては、営業利益は 1,048百万円（前連結会計年度比 11.2%増）、経常利益は 1,133百万円（前連結会計年度比 17.0%増）と前連結会計年度から増加しておりますが、半導体事業の山形工場の売却方針決定に伴う減損損失の発生や、自動認識事業の会社分割（簡易新設分割）に伴う廃棄損失が発生したことにより、当期純利益は 525百万円（前連結会計年度比 13.8%減）となりました。

■ セグメント別概要

当連結会計年度におけるセグメントの業績は次のとおりであります。

	売上高(百万円)			営業利益又は営業損失(△)(百万円)		
	前連結会計年度	当連結会計年度	前期比(%)	前連結会計年度	当連結会計年度	前期比(%)
分析機器事業	11,230	11,352	1.1	487	588	20.8
半導体事業	4,613	4,531	△1.8	436	487	11.6
自動認識事業	665	856	28.8	8	△27	—
小計	16,509	16,740	1.4	933	1,048	12.4
消去又は全社	—	—	—	10	0	△99.4
合計	16,509	16,740	1.4	943	1,048	11.2

●分析機器事業

主力製品ごとに特別チームを編成し、開発・生産・営業の連携を強め、徹底した品質管理や迅速な情報共有、最適な生産体制の効率化を展開してまいりました。また、サービス面ではWebの充実等により、顧客の利便性向上に一層の努力をしてまいりました。

この結果、当連結会計年度の売上高は11,352百万円（前連結会計年度比 1.1%増）、営業利益は588百万円（前連結会計年度比 20.8%増）となりました。

●自動認識事業

当事業が注力しているアクセスコントロール関連（警備機器、勤怠管理機器、入退室管理機器）では、オフィスやマンションの新規需要が徐々に高まり始めましたが、末端設備の導入が進むまでには時間がかかり、前連結会計年度同様、厳しい環境となりました。

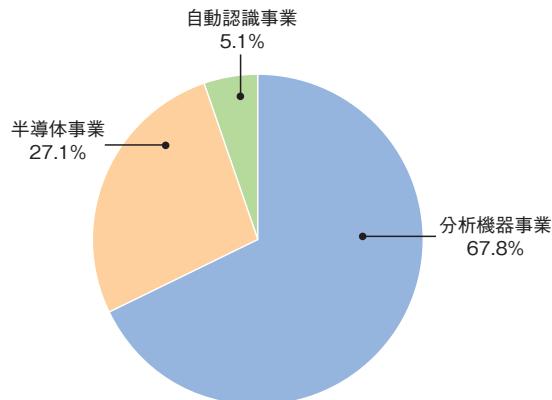
この結果、当連結会計年度の売上高は856百万円（前連結会計年度比 28.8%増）、営業損失は27百万円（前連結会計年度は営業利益8百万円）となりました。

●半導体事業

半導体製造プロセスの消耗品であります石英やシリコン製品は、国内市場は受注・売上高ともに低迷した状況が続きましたが、海外市場では、主にアジア地域を中心に営業活動を展開しました結果、損益面でも貢献することができました。

この結果、当連結会計年度の売上高は4,531百万円（前連結会計年度比 1.8%減）、営業利益は487百万円（前連結会計年度比 11.6%増）となりました。

セグメント別売上構成比



■次期の業績見通し

(分析機器事業)

前期に発足したプロジェクトチームをビジネスチームとして再編しマーケティングに注力し、市場のニーズに応えるための戦略を展開してまいります。

(半導体事業)

既存顧客の深耕や、成長が見込まれるアジアや米国地域を中心に新規需要の掘り起こしに努める一方、製造工程では、引き続き原価低減を推し進めてまいります。

(自動認識事業)

不振であったアクセスコントロール事業の復活の兆しをとらえ「完成系製品」の販売に注力いたします。

平成26年3月期の連結業績及び単独業績の見通しにつきましては、それぞれ次のとおりです。

なお、単独業績の見通しの額は、自動認識事業を除外しております。

(連結業績の見通し)

売上高	17,433百万円	(前連結会計年度比 4.1%増)
営業利益	779百万円	(前連結会計年度比 25.7%減)
経常利益	796百万円	(前連結会計年度比 29.7%減)
当期純利益	449百万円	(前連結会計年度比 14.4%減)

(単独業績の見通し)

売上高	11,650百万円	(前期比 2.9%減)
営業利益	500百万円	(前期比 5.4%増)
経常利益	555百万円	(前期比 7.7%減)
当期純利益	344百万円	(前期比 4.6%減)

Approach to the Environment

環境への取り組み

当社は、地球環境の保全が人類共通の最重要課題の一つであり、環境負荷低減の取り組みが企業の継続及び発展にとっても必要不可欠であることを認識し、環境保全に配慮した企業活動を通じてより良い社会の実現に貢献します。

■製品を通じた環境貢献

当社はクロマトグラフィー関連の消耗品を多く取り扱っておりますが、環境に配慮した製品の開発・販売にも努力をしております。例えば下記に取り上げたような製品群を使用していただくことによって環境負荷を低減することができます。なお、これら製品の販売数や既存製品に占める割合は増加傾向にあります。

- 従来の分析法では、前処理の段階で多量の溶媒を使用していたものを、当社の取扱製品である固相抽出カートリッジを使用した分析法に切り替えることにより、溶媒使用量の削減に貢献いたします。
- 液体クロマトグラフ（LC）の分析で使用するカラムにおいては、使用溶媒が少なく済むカラム内径の細い“セミマイクロLCカラム”や、使用溶媒が少なく、分析時間を短縮してエネルギーの削減に貢献する“UHPLC対応カラム”及び“MonoCap”など、環境に配慮した製品の販売に努力しております。

—固相抽出関連製品—



—環境にやさしいHPLCカラム—



分析機器事業

試料前処理 インストルメンツ&ソフト・パーツ

GCやLC（後述）の機器分析装置、特にGC/MS、LC/MSにおいての高感度化は、分析基準値の見直し要求に準拠し、近年数段の進展を見せております。その装置感度の向上に不可欠な技術が分析試料の前処理・濃縮導入技術になります。高感度分析装置に分析試料を導入する際、ターゲット成分の濃縮ができれば、分析可能な低濃度試料の領域が無限大に広がっていきます。

水道水質基準検査法に盛り込まれた、低濃度基準値のカビ臭気物質や揮発性有機化合物の分析用に新たに販売を行った「AquaPT 6000」は、重要な製品として位置付けられ、全自動固相抽出装置である「AQUATrace ASPE799」は、現在まで多くのお客様にご利用いただいております。

また、水質分析における試料前処理に有効な「固相加圧送液装置 AQUALoaderⅢ」をラインアップしており、さらなるニーズへの対応に心がけています。

装置販売に限らず、装置同様に高度の知見を必要とする消耗製品群で、弊社オリジナルブランド“イナートファミリー”の一つである「イナートセップ」は、多様化するニーズ・環境水質市場・食品市場をターゲットに、新製品を開発・発売し、一段の売上増を進めております。



パージ・トラップ濃縮導入装置 AquaPT 6000



前処理固相抽出カートリッジ InertSep®シリーズ

ガスクロマトグラフ インストルメンツ&ソフト・パーツ

ガスクロマトグラフ (GC) は、試料を気化して分離・定量する分析法で、ガス成分分析から溶剤等の気化しやすい成分群の分析に適しています。その特長により、素材等の成分分析から水質・大気・土壌等の環境分析に到るまで大いに利用されております。特に弊社製品は日本の環境行政に適応・貢献すべく、年々基準値が見直されている公定分析法にも迅速に対応しております。

弊社は、「GC-4000シリーズ」を発売後、周辺装置群にも力を入れ、高感度・軽量化・高安定性を実現したリークディテクター「LD239」、小型設計・広い流量レンジのデジタルフローメーター「GLF-1000」の開発を行いました。GC本体のラインアップ、その他周辺装置を充実させ、お客様のさらなるニーズをサポートしております。



シリカモノリス捕集剤 MonoTrap®



GCキャピラリーカラム InertCap® シリーズ



リークディテクター
LD239



デジタルフローメーター
GLF-1000

香気成分をターゲットとし、食品・環境における簡易濃縮分析やスクリーニング分析用として、弊社が誇るモノリス技術を利用した「MonoTrap (モノトラップ)」を発売しており、お客様のニーズに合わせた安価で手軽な濃縮分析を可能にしました。

弊社オリジナルブランド“イナートファミリー”の一つである「イナートキャップ」は、多くのラインアップを取り揃え、また、MonoTrapとのタイアップにより、安定した品質、供給で一段の売上増を目指しております。

液体クロマトグラフ インストルメンツ&ソフト・パーツ

液体クロマトグラフ（LC）は、試料を液体の状態にて分離・定量する分析法で、GC分析ではカバーしきれない沸点の高い化合物の分析等に適しています。化合物の多くがLCに適しており、食品・製薬・バイオなどの分野で用いられています。研究施設に設備される分析機器導入伸び率もLC・LC/MS・LC/MS/MSは極めて高く、需要層もバイオ・ライフサイエンス市場を筆頭に近年、高性能自動分析装置の需要が強く、弊社においてもその要求に応えられる装置を取り揃えております。

弊社では、LC分析の試料移送のキャリア流量に合わせて多種類の装置群を開発し、もっとも需要が多い汎用HPLCや、高速・高分離・高感度を実現した一体型HPLC「Smart HPLC システム LC800」を販売しております。

また、LCで使用するカラムとして、不活性と耐久性を兼ね備えたファーストチョイスカラムとして最適な「Inert Sustain C18」をはじめ「InertSustain Phenyl」や「InertSustain NH2」をラインアップしております。



Smart HPLC システム LC800



InertSustain® C18

自動認識事業

ジーエルソリューションズ株式会社 (旧 ジーエルサイエンス(株)自動認識事業本部)

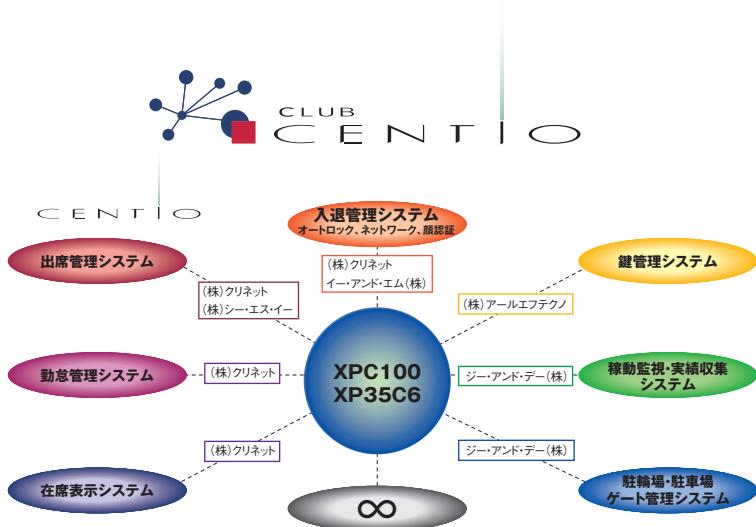
平成25年4月1日、ジーエルサイエンス(株)自動認識事業本部は分社独立し、ジーエルソリューションズ(株)として新たに活動を開始しました。新会社が手掛ける非接触ICカードリーダー関連をはじめとする自動認識事業の進化、市場の活性化、拡大化は著しいものがあります。分社化により経営判断の迅速化と責任の明確化を図り、組織の目的と役割を確立していくことでこの変化に柔軟に対応していきます。

インテリジェントターミナル CENTiO XP35C6シリーズ

従来から販売を行っておりましたWindows CEを搭載し、プログラマブルなICカードリーダ内蔵コントローラとして「XP35C6シリーズ」「XPC100シリーズ」はアプリケーション開発により、さまざまな応用が可能であり、入室管理や出席管理、デジタルサイネージ、その他さまざまな用途に利用できる汎用性の高い機器です。このたび、これらのシリーズにCENTiO (センチオ) という名称を用意しました。CENTiOというブランド展開により、本製品の知名度の向上を積極的に図るとともに採用企業との協業の具体化を実現し、より広い浸透を目指します。



協力企業交流会 CLUB CENTiO (クラブセンチオ)



CENTiOシリーズを素材とした機器、システム、ソリューションの構築・販売にあたりそれぞれの案件に即したアプリケーション開発こそが重要な役割を持ちます。これらのアプリケーションを開発いただける企業、機器およびシステムを販売・提案いただける企業との連携を図り、より幅広い交流を深め販売機会を促進することを目的にCLUB CENTiOという企業交流会を組織しました。趣旨に賛同いただく企業間での情報交換を実施し、事例の共有、販売機会の増大を目指します。

Consolidated Financial Statements

連結財務諸表

●連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前期 (24.3.31現在)	当期 (25.3.31現在)
資産の部		
流動資産	14,359	14,336
現金及び預金	4,665	5,098
受取手形及び売掛金	5,930	5,803
たな卸資産	3,351	2,863
繰延税金資産	273	217
その他	150	356
貸倒引当金	△ 11	△ 2
固定資産	8,528	8,505
有形固定資産	7,225	7,060
建物及び構築物	2,597	2,418
機械装置及び運搬具	877	956
土地	3,300	3,216
その他	450	468
無形固定資産	79	91
投資その他の資産	1,223	1,353
投資有価証券	679	736
その他	547	619
貸倒引当金	△ 2	△ 2
資産合計	22,888	22,841

	前期 (24.3.31現在)	当期 (25.3.31現在)
負債の部		
流動負債	6,231	5,650
支払手形及び買掛金	2,355	2,206
短期借入金	2,730	2,314
賞与引当金	399	343
役員退職慰労引当金	—	26
その他	745	759
固定負債	1,615	1,329
長期借入金	891	819
再評価に係る繰延税金負債	112	112
退職給付引当金	339	263
役員退職慰労引当金	82	40
その他	189	92
負債合計	7,846	6,979
純資産の部		
株主資本	13,750	14,122
資本金	1,207	1,207
資本剰余金	1,819	1,819
利益剰余金	11,232	11,603
自己株式	△ 508	△ 508
その他の包括利益累計額	△ 531	△ 220
その他有価証券評価差額金	△ 9	89
繰延ヘッジ損益	△ 103	△ 10
土地再評価差額金	△ 330	△ 330
為替換算調整勘定	△ 87	30
少数株主持分	1,823	1,960
純資産合計	15,042	15,862
負債純資産合計	22,888	22,841

●連結損益計算書

(単位：百万円)

	前期 (23.4.1～24.3.31)	当期 (24.4.1～25.3.31)
売上高	16,509	16,740
売上原価	11,033	10,822
売上総利益	5,475	5,918
販売費及び一般管理費	4,532	4,869
営業利益	943	1,048
営業外収益	106	127
営業外費用	80	43
経常利益	969	1,133
特別利益	0	15
特別損失	15	275
税金等調整前当期純利益	953	873
法人税、住民税及び事業税	265	189
法人税等調整額	△ 69	61
少数株主損益調整前当期純利益	757	622
少数株主利益	147	97
当期純利益	609	525

●連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前期 (23.4.1～24.3.31)	当期 (24.4.1～25.3.31)
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,474	1,808
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 414	△ 647
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 370	△ 692
現金及び現金同等物に係る換算差額	△ 36	52
現金及び現金同等物の増加額	652	520
現金及び現金同等物の期首残高	2,307	2,960
現金及び現金同等物の期末残高	2,960	3,480

●連結株主資本等変動計算書

当期 (24.4.1～25.3.31)

(単位：百万円)

	株主資本					その他の包括利益累計額						少数株主 持分	純資産 合計
	資本金	資 余 金	利 余 金	益 余 金	自己株式	株主資本 合計	その 他 有 価 証 券 評 価 差 額 金	繰延ヘッジ 損益	土地再評価 差額金	為替換算 調整勘定	その 他 の 包 括 利 益 累 計 額 合 計		
当期首残高	1,207	1,819	11,232	△ 508	13,750	△ 9	△ 103	△ 330	△ 87	△ 531	1,823	15,042	
連結会計年度中の変動額													
剰余金の配当	—	—	△ 153	—	△ 153	—	—	—	—	—	—	△ 153	
当期純利益	—	—	525	—	525	—	—	—	—	—	—	525	
自己株式の取得	—	—	—	0	0	—	—	—	—	—	—	0	
株主資本以外の項目の連結 会計年度中の変動額(純額)	—	—	—	—	—	99	93	—	118	310	137	448	
連結会計年度中の変動額合計	—	—	371	0	371	99	93	—	118	310	137	819	
当期末残高	1,207	1,819	11,603	△ 508	14,122	89	△ 10	△ 330	30	△ 220	1,960	15,862	

Company Profile

会社の概況 (平成25年3月31日現在)

●商号 ジーエルサイエンス株式会社
●証券コード 7705 (東証第二部)
●本社所在地 東京都新宿区西新宿六丁目22番1号
●設立 昭和43年2月1日
●資本金 1,207,795千円
●役員

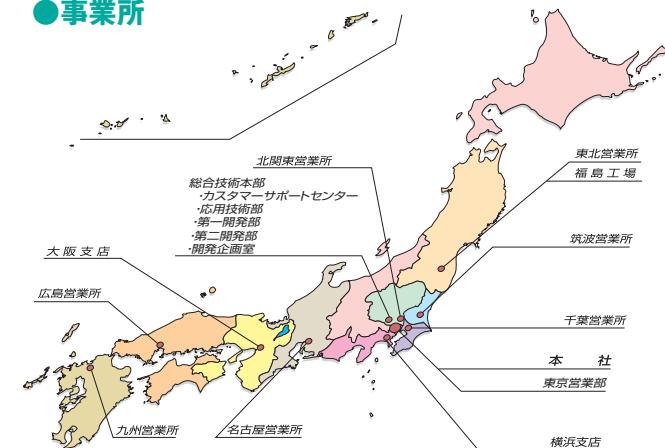
取締役社長 外丸 勝彦
取締役 奥山 雅司
取締役 梁 正一
取締役 黒川 利夫
取締役 長見 善博
取締役 山下 俊一
常勤監査役 野口 一英
監査役 籠原 一晃
監査役 秋元 民也

●従業員数 415名
●主な事業

・ガスクロマトグラフィー／液体クロマトグラフィー
装置・前処理装置・部品・充填剤・分析カラム・固相・周辺機器
・分光光度計用セル、石英加工品
・半導体関連分析装置
・バイオ機器・部品
・非接触ICカード、リーダライタ
・その他すべての関連製品

●関係会社
テクノオーツ株式会社
株式会社グロース
ジーエルソリューションズ株式会社
(平成25年4月1日設立)
杭州泰谷諾石英有限公司 (中国)
ATAS GL International B.V. (オランダ)
GL Sciences, Inc. (米国)
GL TECHNO America, Inc. (米国)
島津技迹(上海)商貿有限公司

●事業所



(平成25年6月25日現在)

●当社のホームページ
<http://www.gls.co.jp>



●株式の状況

発行可能株式総数	22,380,000株
発行済株式の総数	5,130,150株 (自己株式464,850株を除く)
株主数	1,271名

●大株主（自己株式を除く）

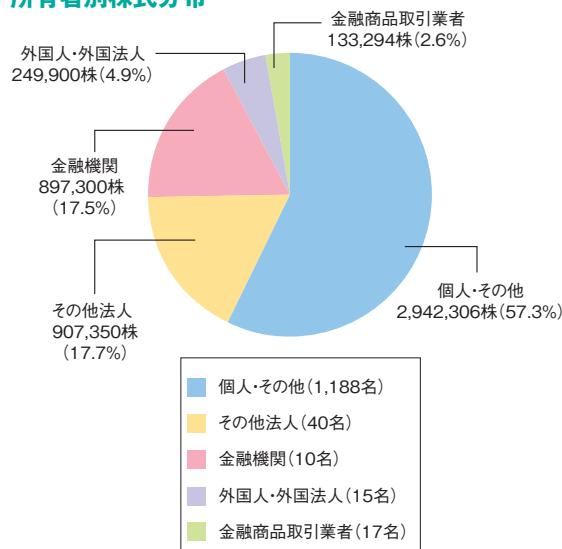
株主名	持株数	持株比率
ジーエルサイエンス従業員持株会	682,986株	13.3%
株式会社島津製作所	290,000株	5.7%
森 禮子	253,047株	4.9%
株式会社三菱東京UFJ銀行	249,100株	4.9%
株式会社山口銀行	248,000株	4.8%
株式会社みなと銀行	222,000株	4.3%
東京中小企業投資育成株式会社	212,850株	4.1%
公益財団法人世界自然保護基金ジャパン	200,000株	3.9%
クレディ・スイス・セキュリティーズ(ヨーロッパ) リミテッド ビービー オムニバス クライアント アカUNT	149,000株	2.9%
山川 義弘	126,000株	2.5%

(注) 持株比率は、自己株式を控除して計算しております。

●所有者別株式分布（自己株式を除く）

順位	株主名	持株数	持株比率
1	個人・その他(1,188名)	2,942,306株	57.3%
2	その他法人(40名)	907,350株	17.7%
3	金融機関(10名)	897,300株	17.5%
4	外国人・外国法人(15名)	249,900株	4.9%
5	金融商品取引業者(17名)	133,294株	2.6%
	合計	5,130,150株	100.0%

所有者別株式分布



株主メモ

事業年度	4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎年6月
同総会議決権行使 株主確定日	毎年3月31日
期末配当金支払 株主確定日	毎年3月31日（中間配当は行っていません。）
株主名簿管理人 特別口座の口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社
同連絡先	〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 TEL 0120-232-711（フリーダイヤル）
公告の方法	電子公告により行う 公告掲載URL http://www.gls.co.jp (ただし、電子公告によることができない事故、その他のやむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に公告いたします。)

(ご注意)

1. 株券電子化に伴い、株主様の住所変更、買取請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関（証券会社等）で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問合せください。株主名簿管理人（三菱UFJ信託銀行）ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
2. 特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座の口座管理機関（三菱UFJ信託銀行）にお問合せください。なお、三菱UFJ信託銀行全国各支店にてもお取次ぎいたします。
3. 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。